

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（令和5年4月）

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、噴火活動が継続しています。

噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上2,000mまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約500mまで飛散しました。

地殻変動観測では、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の更なる増加と推定される変動は認められません。また、島の西側で発生していると推定される火山性地震も少ない状態で経過しています。

御岳火口中心から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

### ○ 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1、図2-①、図3-①③⑤⑨、図5-①②）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、噴火活動が継続しています。噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上2,000mまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は火口中心から最大で約500mまで飛散しました。爆発の月回数は1回（3月：65回）で前月よりも減少しました。

御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳火口から南南西約3.5km）で時々鳴動と降灰が確認されました。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-②③、図3-③④⑥⑦、図4、図6-③-1,2）

諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は32回（3月：63回）と前月より減少しました。御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震も少ない状態で経過しており、月回数は129回（3月：422回）と前月より減少しました。求まった火山性地震の震源は、諏訪之瀬島の西側の深さ2km付近でした。

火山性微動は、主に噴火に伴って発生しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

今回の火山活動解説資料（令和5年5月分）は令和5年6月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

・地殻変動の状況（図2-④、図3-⑧、図5-①、図6-①②）

地殻変動観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。

・火山ガスの状況（図3-②）

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり200～1,400トン（3月：200～1,200トン）で推移しました。



図1 諏訪之瀬島 噴火活動の状況（4月16日キャンプ場監視カメラ）

16日04時02分の噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から南方向に約500mまで飛散しました（白矢印）。

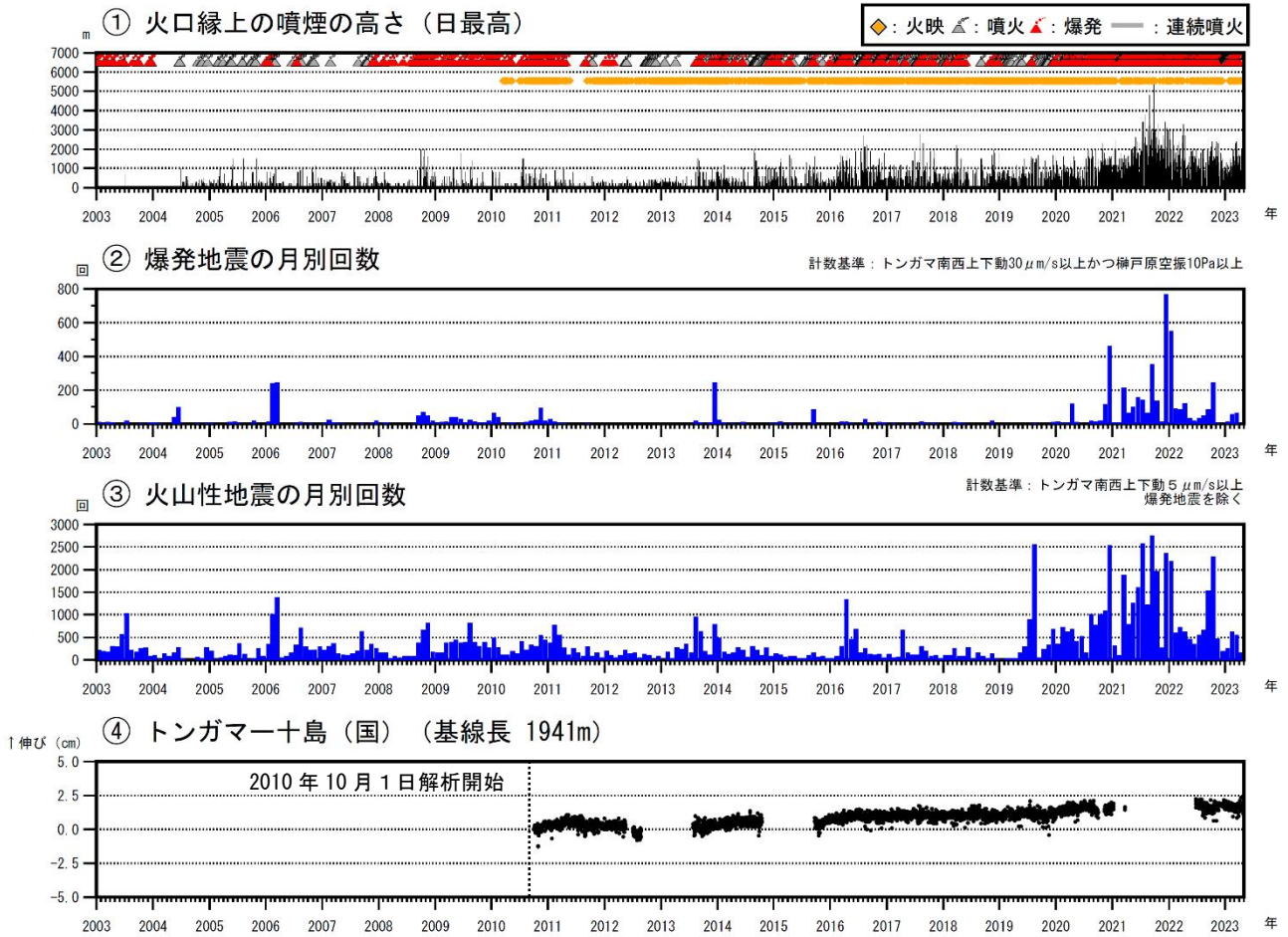


図2 諏訪之瀬島 長期の火山活動経過図（2003年1月～2023年4月）

< 4月の状況 >

- ・ 御岳火口では、噴火活動が継続しています。
- ・ GNSS 連続観測では、島内の基線に特段の変化は認められません。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

④の基線は図7の①に対応しています。④の基線の空白部分は欠測を示しています。

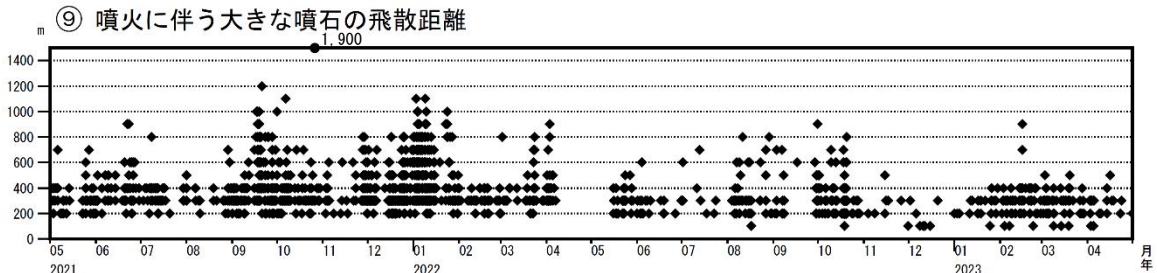
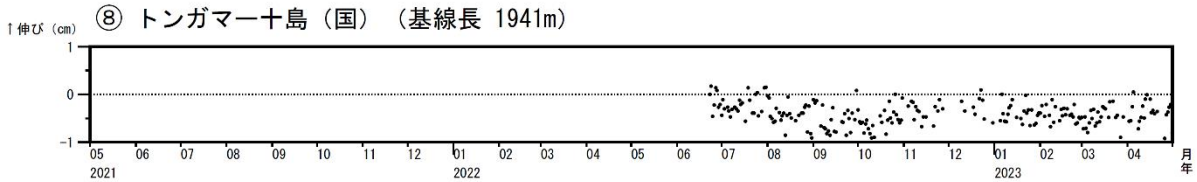
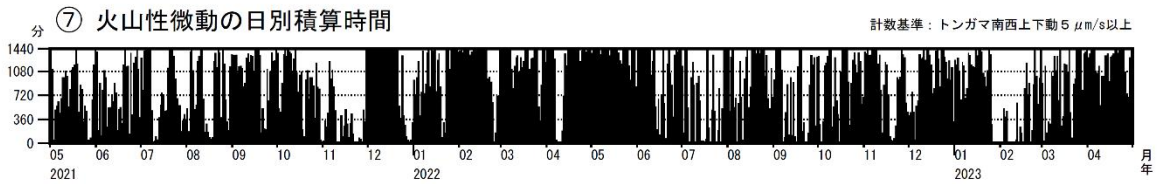
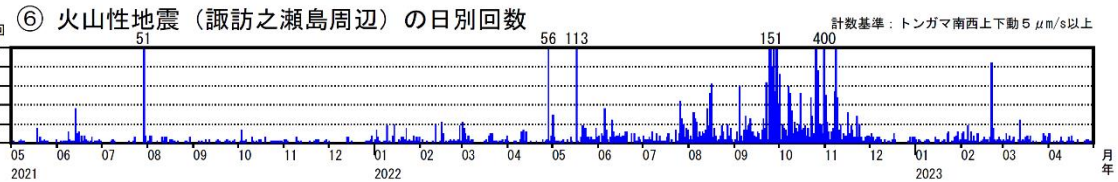
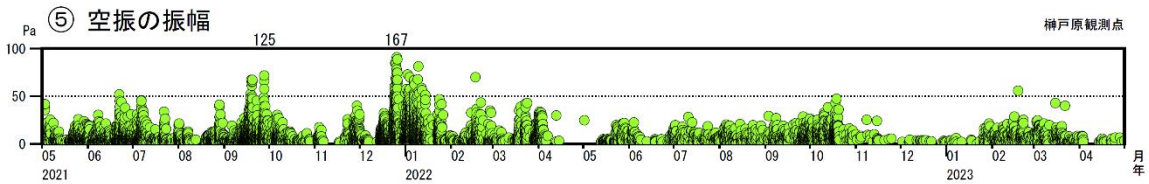
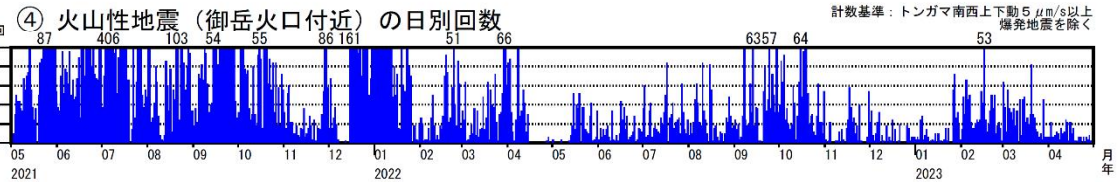
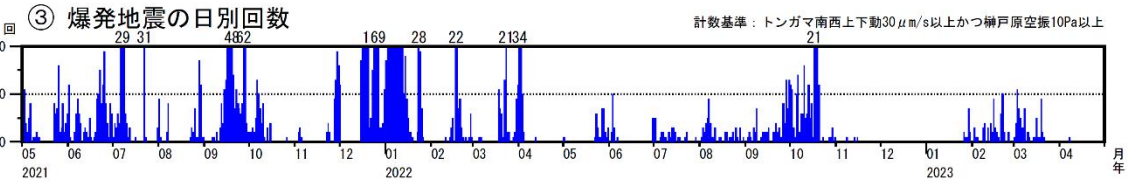
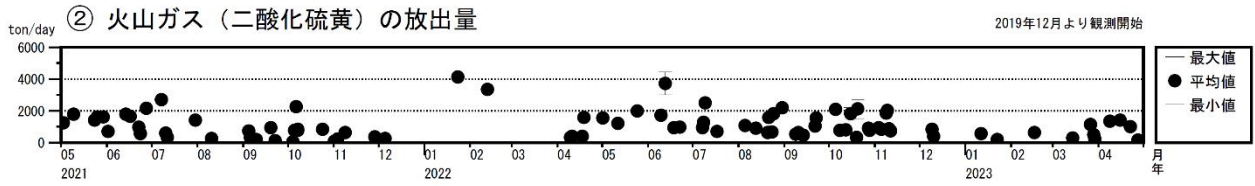
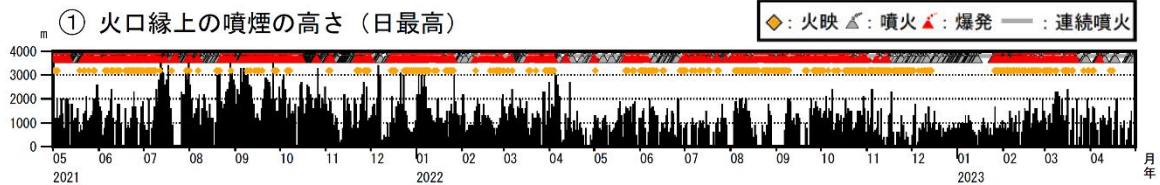


図3（前ページ） 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2021年5月～2023年4月）

< 4月の状況 >

- ・噴火に伴う噴煙は最高で火口縁上 2,000mまで上がりました。御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測しました。
- ・爆発の月回数は1回で、前月（3月：65回）よりも減少しました。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で火口中心から約 500mまで飛散しました。
- ・御岳火口付近の爆発地震を除く火山性地震の月回数は 129 回（3月：422 回）と前月より減少しました。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は 32 回（3月：63 回）と前月より減少しました。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1日あたり 200～1,400 トン（3月：200～1,200 トン）で推移しました。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は 2019 年 12 月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向があります。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

⑧の基線は図7の①に対応しています。⑧の基線の空白部分は欠測を示しています。

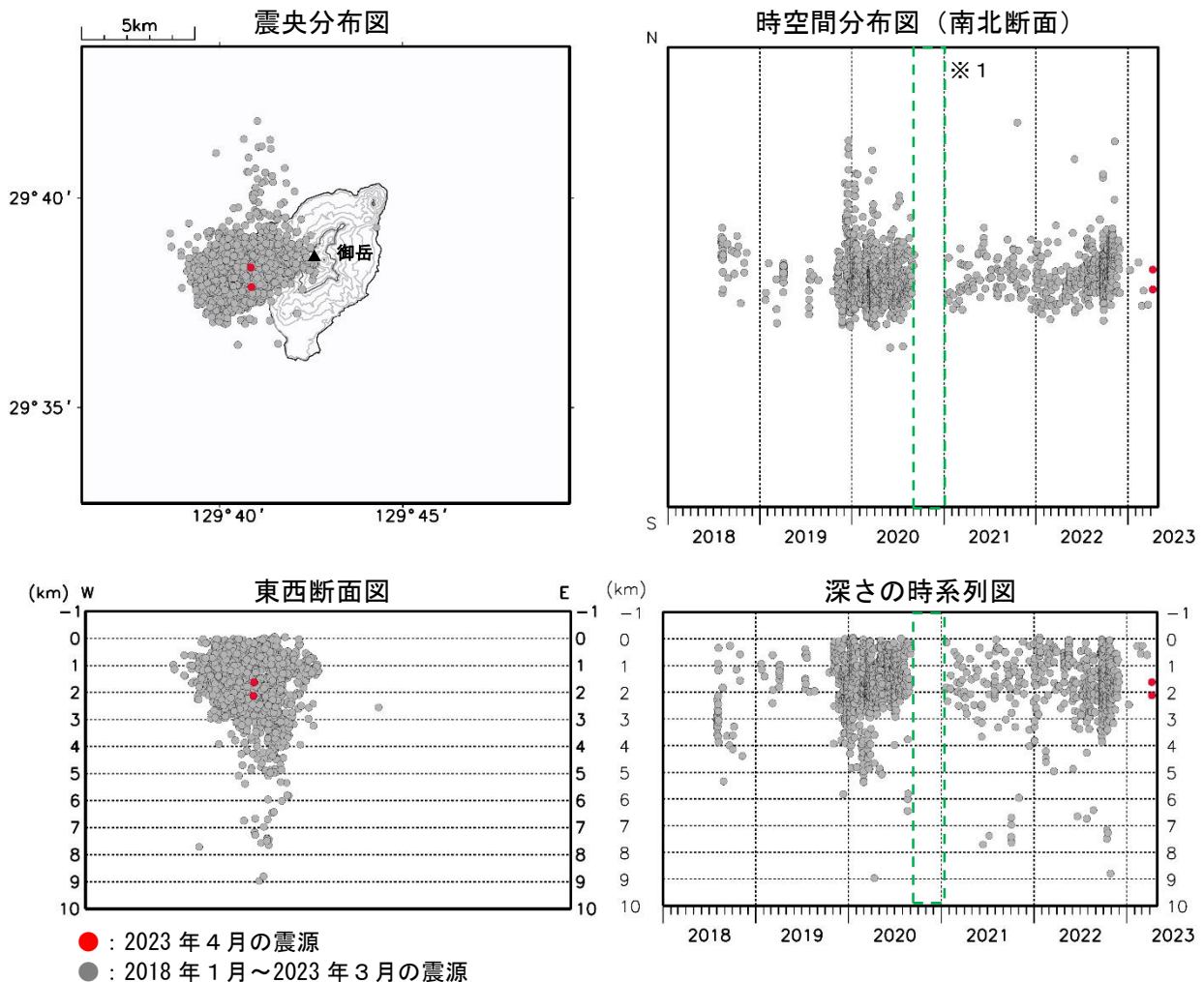


図4 諏訪之瀬島 震源分布図（2018年1月～2023年4月）

< 4月の状況 >

震源が求まった火山性地震は、諏訪之瀬島の西側の深さ 2 km付近でした。

2018年8月より諏訪之瀬島の震源決定をしています。

※1 2020年9月5日から2021年1月10日まで、一部観測点の障害により検知力や震源の精度が低下しています。

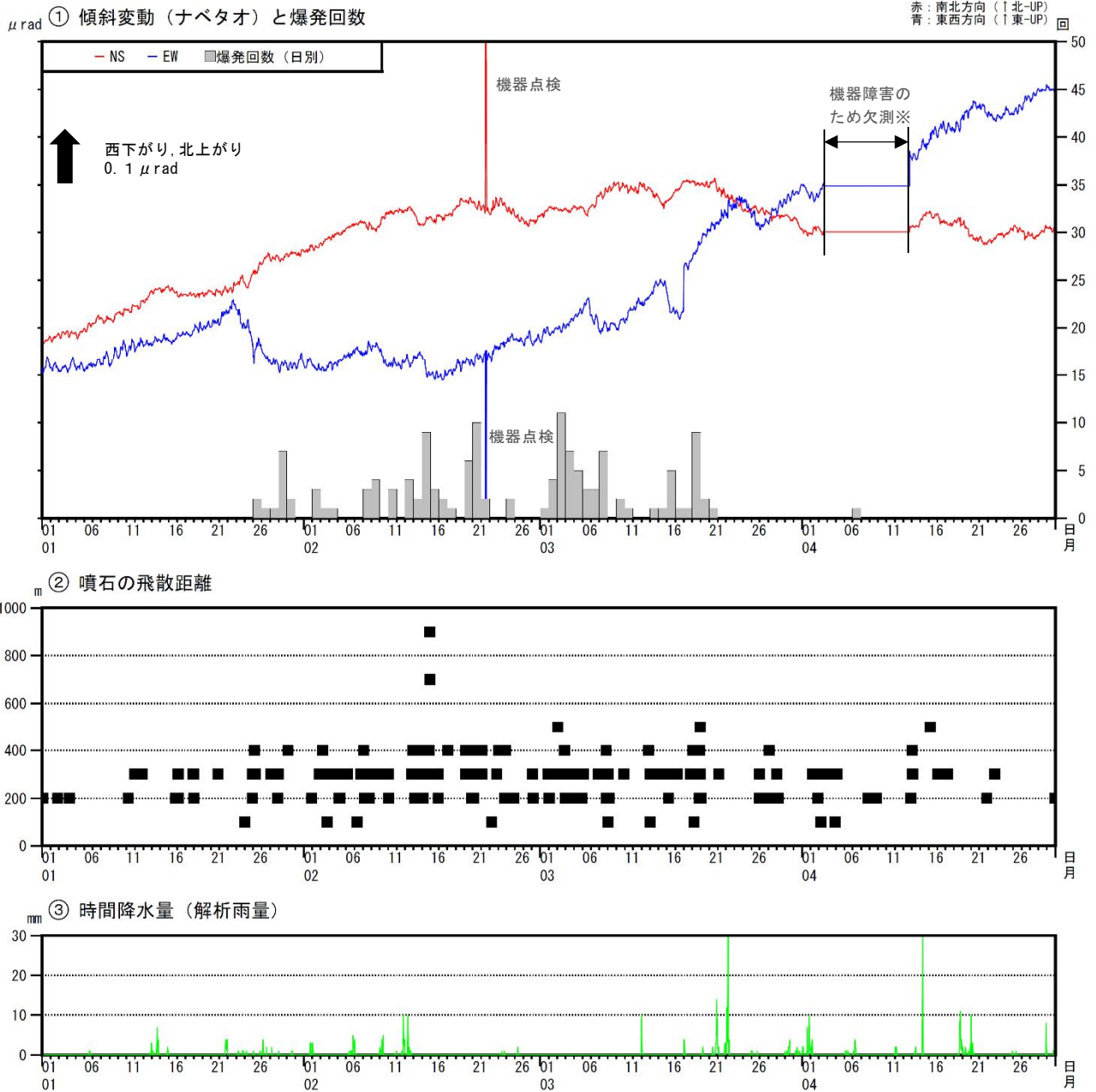


図5 諏訪之瀬島 ナベタオ観測点の傾斜変動と噴火活動（2023年1月～4月）

ナベタオ傾斜計（御岳火口より南西約2.2km）では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。

傾斜データは出水期を中心に降水の影響を受ける場合があります。  
※ナベタオ傾斜計は4月3～13日にかけて機器障害のため欠測

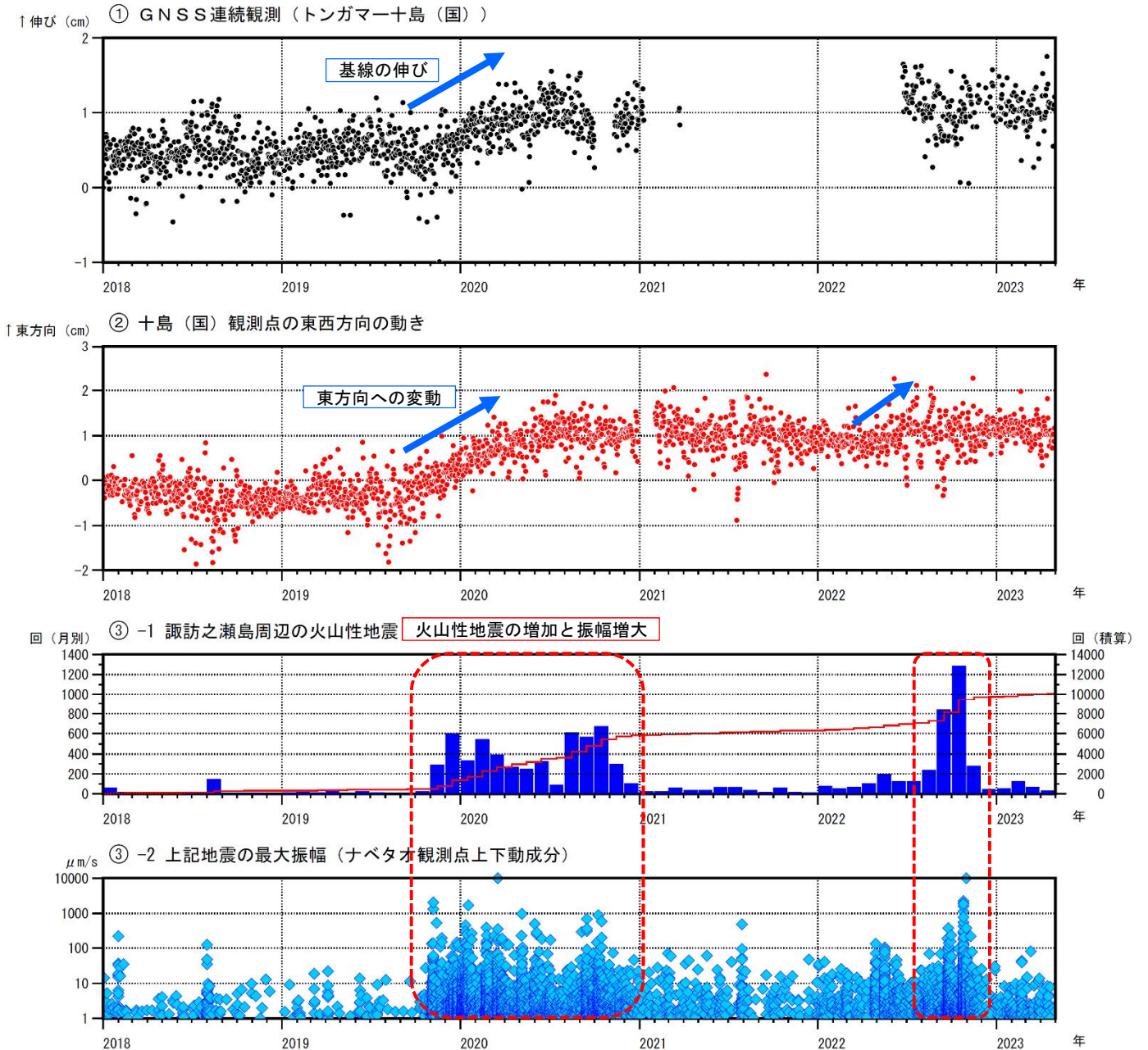


図6 諏訪之瀬島 GNSS連続観測と周辺の火山性地震 (2018年1月~2023年4月)

- ・GNSS連続観測では、火山活動によると思われる特段の変化は認められません。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は32回 (3月: 63回) と前月より減少しました。規模の大きな火山性地震の発生はありませんでした。

①の基線は図7の①に対応しています。②は島外の観測点を固定した観測点の東西の変動を示しています。空白部分は欠測を示しています。

ナベタオ観測点の地震計の機器障害により、御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

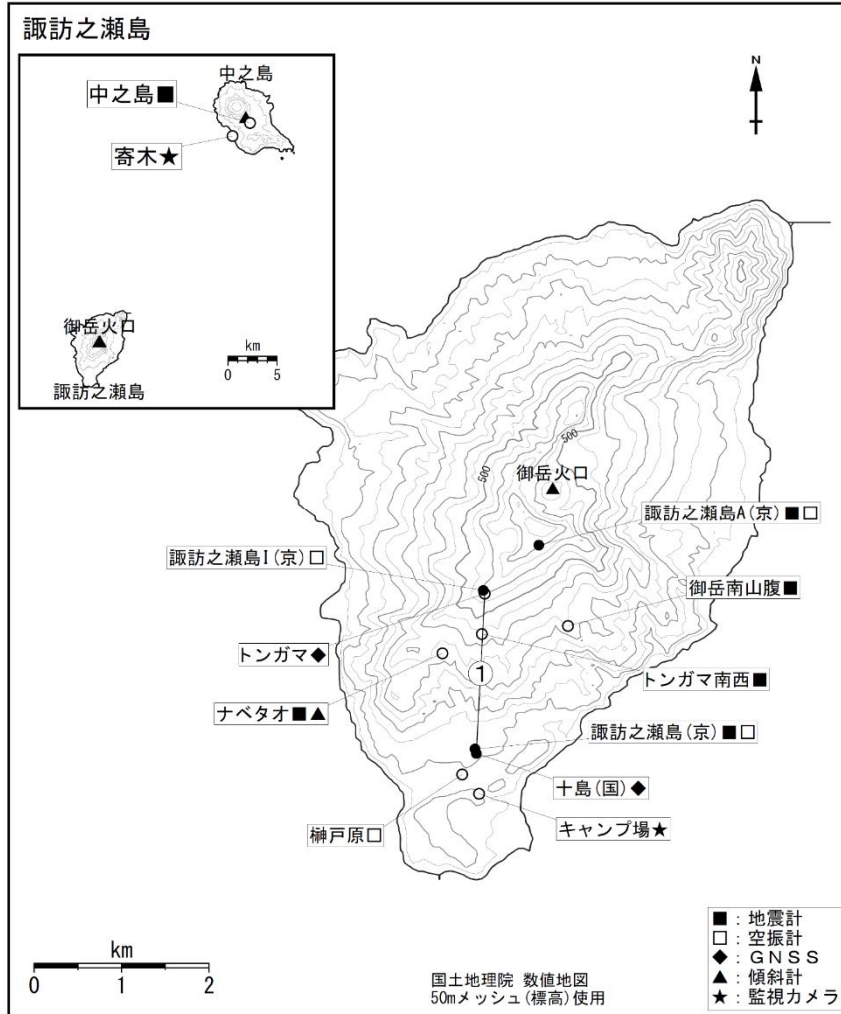


図7 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(京): 京都大学